石畑良太郎先生の記念特集号に寄せて

学長　半　田　正　夫

私たちの敬愛する石畑良太郎先生は，2000年3月に惜しまれつつ定年で本学を退職されました。先生の長年にわたる本学へのご功績に対し，名誉教授の称号が授与されましたが，われわれはそのことを当然のこととして受けとめております。このたび，先生のご功績を称えて青山学院大学経済論集に特集号が編まれることになりましたが，これまた当然のことと存じます。

先生は，1969年に本経済学部助教授として赴任されて以来，じつに31年間の長きにわたり，研究に教育に携わってこられました。先生のご専門は「社会政策」と「労働問題」であり，その方面については多大の業績を挙げられておりますが，専門外の私にはこれについて語る資格はありませんので，ほかの方にお譲りしたいと思います。私が先生に強い印象を抱いているのは，先生の学生指導の面においてです。先生の学生に対する献身的なまでの面倒見のよさについては定評のあるところであり，温厚な人柄とともに学生やOBに慕われるところとなっております。そのことは先生が体育連合会顧問，体育会学生本部顧問，空手道部長，拳法部長，野球部長，チアーリーディング愛好会顧問など，多くの部長等を引き受けられているところでも十分に裏書されるところです。先生の類まれな指導のおかげで，野球部が東都大学リーグで優勝するという快挙を成し得たことはいまだにわれわれの記憶に鮮明に焼きついているところです。

少子化の時代を迎え，私は「学生を大事にする大学づくり」を本学が今後取り組むべき重要な課題のひとつと捉えていますが，先生はすでにこれを実践しておられ，われわれもかくありたいと考えております。

先生の今後のご健勝を祈念するとともに，これまでの本学及び本学学生に対するご厚情に大学を代表して衷心よりお礼申し上げたいと存じます。

2001年1月